

JS LETTER

Total Solution Provider For Innovation

今期の業績と
トピックスを一目で

ご挨拶&トピックス

成長戦略を語る

社長インタビュー

図で分かりやすく解説した

ジャパンシステムの
事業内容

グラフ付き解説

事業別の業績

ピックアップ

財務ハイライト

株式情報/会社情報


JAPAN
SYSTEMS
ジャパンシステム株式会社

第42期 株主通信

2010年1月1日~2010年12月31日

証券コード：9758

情報システムは、「所有」から「利用」の時代へ

これまでの業態を転換し、42年にわたる実績に基づいた確かな技術力で、お客様のニーズに合わせた商品やサービスを提供してまいります。



Sakaguchi Masahiro
代表取締役社長 阪口 正坦

株主の皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

2010年12月期(第42期)の事業報告と今後の展開について、ここにご説明させていただきます。

当社は、「知識創造社会におけるITサービスの担い手として、お客様の発展、成長に貢献する企業であり続ける」を経営方針に掲げ、中期経営計画の地盤固め期を完了し、当期を発展期と位置づけ、業務の再整備と経営の健全化に取り組んでまいりました。

社会全体が、情報システムを「所有する」から「利用する」との考え方に転換しつつある中で、当社もその変化

2010年度

TOPICS

1

株式会社ネット・タイムの情報セキュリティ事業部門の事業を譲り受けました。

当社では、中期経営計画の中で、他社とのアライアンスを含む新たな製品、サービスの拡充に取り組んでおりますが、その一環として昨年4月にネット・タイム社より情報セキュリティ事業を譲り受けました。同事業の主力商品である情報セキュリティ関連サービス「ARCACLAVIS※」と当社の他のソリューションとの融合により、さらに付加価値の高いサービスを多くのお客様に提供できるよう取り組んでまいります。

※ARCACLAVIS
(アルカクラヴィス)

ICカード認証によるPCセキュリティ対策、シングルサインオンなどオフィスにおける総合情報セキュリティソリューションシリーズ。

4月
April

売上高

7,747百万円  UP

(前期比6.6%増)

営業利益

195百万円  UP

(前期比49.7%増)

経常利益

207百万円  UP

(前期比60.2%増)

当期純利益

287百万円  DOWN

(前期比25.7%減)

を先取りし、業態を「サービス提供型」「水平分業型・協業型」「知識創造型」にシフトすべく、積極的に事業を展開してまいりました。さらに、前期に引き続き、開発効率の向上や諸経費の見直しなど、原価低減・経費削減に努めた結果、情報サービス業界が今なお厳しい事業環境に置かれているにもかかわらず、当社は、前期を上回る売上高と経常利益を確保するなど、一歩ずつではありますが、確実に改革の成果を上げることができました。(詳細は、P7以降の財務ハイライトをご覧ください)

従来からの主力サービスである自治体向け行政経営支援サービス(FAST)は、高い導入シェアを誇り、使いやすくリーズナブルな商品としてお客様から高評価をいただいておりますが、さらに

商品力を強化してまいります。

民間企業のお客様に提供している各システムの開発等も当社の強みであり、まだまだ成長余地が大きいと見込んでおります。また、新たに情報セキュリティ関連サービスをリリースし、従来からのお客様との関係を推し進めるとともに、新規顧客の獲得に注力してまいります。

来期は、「新機軸の創出と確立のスタートの年」と位置づけ、業態シフトを加速させてまいります。

株主の皆様には、当社の成長にご期待いただき、引き続きのご支援のほど、よろしくごお願い申し上げます。

2010年度

TOPICS

2

自治体事業における「行政クラウド・モール[※]」への参加を決定しました。
～財務会計システム「FAST」をクラウドサービスにて提供～

情報システムのコスト削減や業務効率化などを目的として「クラウド」が注目される中、当社においても各種製品、サービスをクラウド環境下でお客様にご利用いただけるよう取り組んでおります。昨年11月には「行政クラウド・モール」への参加を決定し、今後は当社の主力商品である自治体向け財務会計システム「FAST」を、同モールのクラウド基盤上でも提供していく予定です。

※行政クラウド・モール

自治体向け専門ベンダーが参加し、各社パッケージ製品をクラウド上で提供するサービス。各自治体はモールに参加する各社の業務パッケージから最適な製品を選択、変更の上利用することができ、各業務システムを連携させてクラウド上で管理することが可能となります。

社長インタビュー

Q 今後の事業の方向性や、成長戦略についてどのようにお考えですか？

中期経営計画の達成に向け、また、当社がさらに飛躍していく将来を見据え、今後、当社が注力すべき方向性についてご説明いたします。

まず、クラウド・コンピューティングへの積極的な対応を行ってまいります。当社の主力商品である自治体向け行政経営支援サービス(FAST)は既にクラウド化への対応を進めており、情報セキュリティ関連サービス(ARCACLAVIS)もクラウドに対応するための開発を開始いたしました。

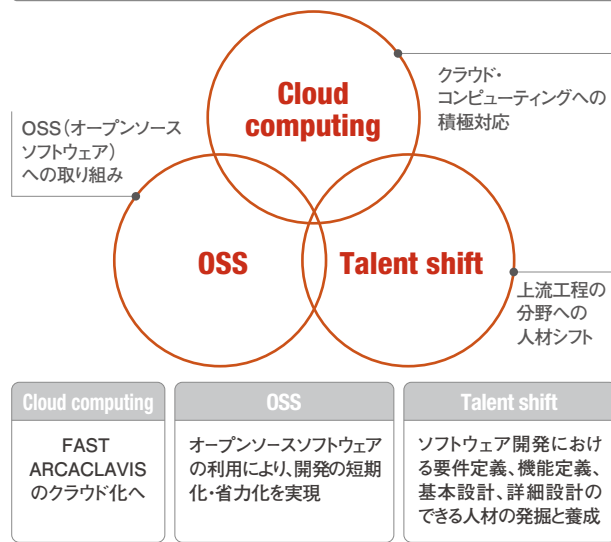
次に、当社の商品開発やサービスの提供においてオープンソースソフトウェア(OSS)の利用は今後不可欠になるであろうと考えています。さらに、上流工程分野への人材シフトも行っています。要件定義、機能定義、基本設計、詳細設計などに対応できる人材を養成するとともに、優秀な人材の発掘にも取り組み、より一層組織力の充実化を図ってまいります。

42年間の歴史の中で蓄積した当社の技術、情報、知識などをベースにしつつ業態を大きくシフトしなければならないと考えています。お客様が求めるITを提案する「サービス提供型」へ、当社のノウハウと他社の独自技術とを融合しスケールの大きなソリューションを提供する「水平分業型・協業型」へ、今まで培ってきたノウハウを発展的に活用し新しいソリューションを提供する「知識創造型」へ、これらの業態シフトをさらに進め、経営体質の強化を図ってまいります。

ジャパンシステム 飛躍に向けた3つの柱

2009年からの黒字化を基盤とし、2010～2011年度の発展期を経て、2012～2013年度の飛躍期に向けて成長を目指す

中期的な目標



新機軸の創出と確立が必要

当社の目指す姿

- 1 サービス提供型へ
- 2 水平分業型・協業型へ
- 3 知識創造型へ

Q 来期の取り組みについて教えてください。

情報システムを「所有する」から「利用する」という時代の流れはクラウド・コンピューティングへの転換、スマートフォンの拡がりなどを背景に、社会インフラひいては社会生活の変化をもたらしています。また、社会インフラの面では、環境に配慮した「スマートグリッド」や、さらに一歩踏み込んだ「スマートシティ」といった展開も始まっています。当社もシステム開発会社として、このような側面からも社会に貢献していきたいと考えております。

規模の小さい自治体や中小企業の中には、情報システムの利用が十分に進んでいないところも多いのが現状です。当社は従来のお客様への深耕を図るとともに、これらの市場を開拓し、より多くのお客様にビジネスを展開してまいります。これらの取り組みを続け、新機軸を確立し、中期経営計画の達成に向け、来期も邁進してまいります。

Q 株主の皆様へメッセージをお願いします。

情報サービス業界の急激な変化の中、当社の中期経営計画における成長への体質改善は確実に成果を上げております。来期は「新機軸の創出と確立のスタートの年」と位置づけ、「研ぎ澄まされた感覚と先取りと速効の心」を持って成長へのステップを踏み出したいと考えています。

今後もさらなる改革を行い、利益面の改善を行うなどの施策も進め、できる限り早い段階で配当を実施できるよう一層の努力を続ける所存でございます。株主の皆様におかれましては、ますますのご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



｜ ジャパンシステムの事業内容 ｜

当社では、3つの事業を柱として展開しています。
皆様の暮らしの身近なところに存在する当社の情報システムやサービスで、
より便利で豊かな社会の発展を支えてまいります。

アプリケーションソフトウェア開発

売上比率 71.3%

情報化時代の急激な進歩の中、お客様とともに時代を築き上げていけるようなコンピュータシステムの構築を目指しています。また、官公庁や銀行、流通、通信など業務分野向けソフトウェアの開発基盤の強化を推進し、生産性と品質の高いサービスを提供しています。

パッケージソフトウェア開発

売上比率 15.0%

魅力溢れる地域社会の創造に向けて、全国の自治体へ25年以上の歴史を持つ行政経営支援サービス「FAST」をはじめ、公共団体向け人事給与システムの構築や、情報セキュリティ関連サービス「ARCACLAVIS」の開発および販売を行っています。

コンピュータ機器等販売

売上比率 13.7%

PC、および周辺機器ならびにサプライ用品の受託販売を行っています。自治体や企業、または個人のお客様が抱える課題に取り組み、お客様の生活向上やビジネスの発展に貢献しています。



証券業向け

- ▶ 証券リテールシステム
- ▶ 証券株式、債権システム
- ▶ 個人年金保険システム など



銀行業向け

- ▶ 為替システム
- ▶ 外為システム
- ▶ 全銀通信システム など



保険業向け

- ▶ 営業支援端末システム
- ▶ 契約管理システム
- ▶ 資産運用システム など



製造業向け

- ▶ 営業管理システム
- ▶ 販売管理システム
- ▶ 生産管理システム など



小売・サプライ業向け

- ▶ 通信販売システム(ECサイト)
- ▶ 決済システム
- ▶ クラウド対応料金システム など



全業種向け

- ▶ インフラソリューション
- ▶ 帳票管理システム
- ▶ 社内ワークフローシステム
- ▶ シングルサインオン
- ▶ 情報セキュリティ関連サービス など



ヘルスケア業向け

- ▶ 介護保険システム
- ▶ 国保システム
- ▶ 電子カルテ等医療システム など



自治体向け

- ▶ 財務会計システム
- ▶ 公会計関連システム
- ▶ 予算関連システム
- ▶ 行政経営支援サービス など

財務ハイライト(要旨)

貸借対照表

(単位:百万円)

科目	期別	第41期	第42期
		2009年 12月31日 現在	2010年 12月31日 現在
資産の部			
① 流動資産		2,478	2,416
固定資産		1,558	1,526
有形固定資産		228	206
無形固定資産		278	306
投資その他の資産		1,051	1,013
資産合計		4,036	3,942
負債の部			
流動負債		1,420	1,219
固定負債		338	160
② 負債合計		1,758	1,380
純資産の部			
株主資本		2,275	2,563
評価・換算差額等		2	△0
③ 純資産合計		2,278	2,562
負債純資産合計		4,036	3,942

① 流動資産

繰延税金資産が増加した一方で、売掛金、仕掛品および貸倒引当金が減少したこと等により61百万円減少し、2,416百万円となりました。

② 負債

買掛金および預り金等が増加した一方で、未払消費税等、前受金、長期借入金および長期未払金が減少したこと等により、378百万円減少し、1,380百万円となりました。

③ 純資産

当期純利益が発生したこと等により284百万円増加し、2,562百万円となり、自己資本比率は、65.0%となりました。

損益計算書

(単位:百万円)

科目	期別	第41期	第42期
		2009年1月1日～ 2009年12月31日	2010年1月1日～ 2010年12月31日
④ 売上高		7,269	7,747
売上原価		5,781	6,219
売上総利益		1,487	1,528
販売費及び一般管理費		1,356	1,332
⑤ 営業利益		130	195
営業外収益		9	19
営業外費用		10	8
経常利益		129	207
特別利益		269	21
特別損失		17	0
税引前当期純利益		380	228
法人税等		△6	△58
当期純利益		386	287

④ 売上高

中期経営計画の目標達成に向け、業務基盤の見直しや経営の健全化に取り組んだことにより、売上高は、前期と比べ6.6%増加し、7,747百万円となりました。

⑤ 営業利益

システム開発の効率化等による売上原価の圧縮、諸経費の徹底した見直しによる販売費及び一般管理費の削減により、営業利益は195百万円、営業利益率は、2.5%となりました。

キャッシュ・フロー計算書

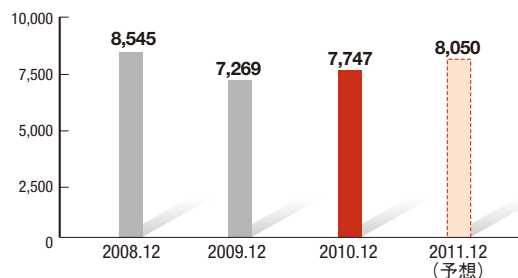
(単位:百万円)

科目	期
	第42期 2010年1月1日～ 2010年12月31日
6 営業活動によるキャッシュ・フロー	188
投資活動によるキャッシュ・フロー	△147
財務活動によるキャッシュ・フロー	△121
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△80
現金及び現金同等物の期首残高	885
現金及び現金同等物の期末残高	805

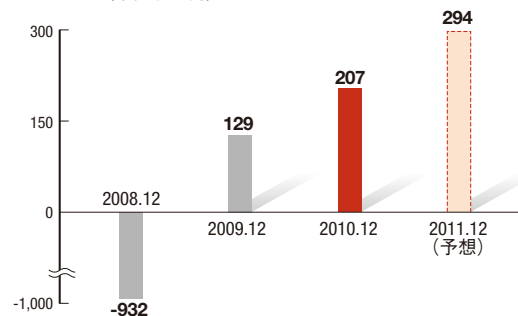
6 営業活動によるキャッシュ・フロー

税引前当期純利益228百万円、売上債権の減少額225百万円、たな卸資産の減少額173百万円および無形固定資産償却費113百万円等の収入があった一方で、貸倒引当金の減少額374百万円および前受金の減少額208百万円が支出となったこと等の要因により、営業活動によるキャッシュ・フローは、188百万円の収入となりました。

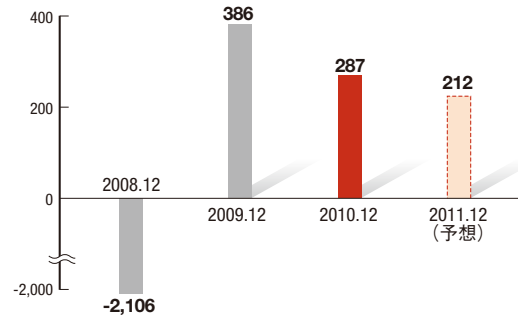
売上高(単位:百万円)



経常利益(単位:百万円)

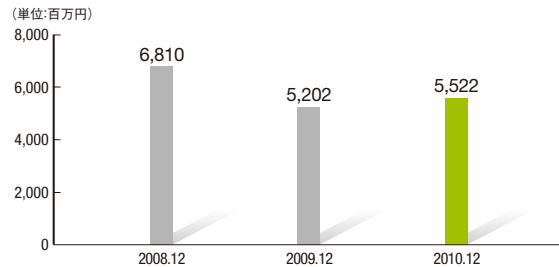


当期純利益(単位:百万円)



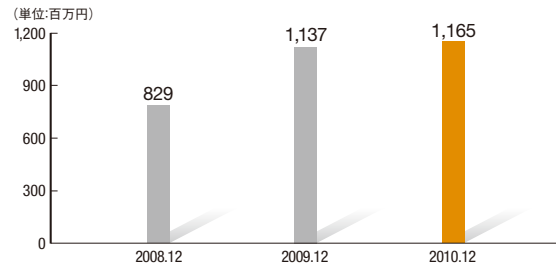
アプリケーションソフトウェア開発

主に官公庁、金融業および通信、流通、製造業などの業務分野向けソフトウェアの開発を中心に事業を展開しております。当期におきましては、従来からのお客様に高い評価をいただき、新たな案件を獲得したことなどにより売上高は5,522百万円となりました。



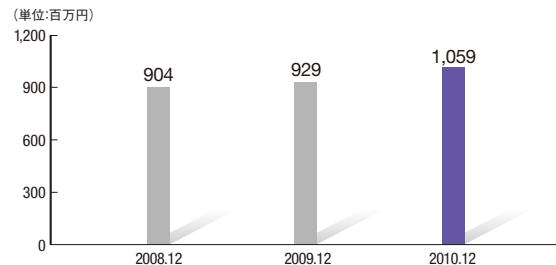
パッケージソフトウェア開発

主に自治体を中心とする行政経営支援サービス「FAST」のソフトウェアの開発を行っております。当期におきましては、自治体新地方公会計制度に対応した案件などが堅調に推移したことなどにより、売上高は1,165百万円となりました。



コンピュータ機器等販売

主に自治体および一般企業を取引先として、コンピュータ機器とその周辺機器やネットワーク製品を中心とした販売を行っております。当期におきましては、売上高は1,059百万円となりました。



株式の状況

(2010年12月31日現在)

発行可能株式総数	98,000,000株
発行済株式の総数	26,051,832株
株主数	1,964名

大株主

株主名	持株数	持株比率
エイチピー エンタープライズ サービシーズ エルエルシー	13,973,000株	53.6%

株主メモ

事業年度	毎年1月1日から12月31日まで
定時株主総会	毎年3月
基準日	定時株主総会 12月31日
配当金受領株主確定日	剰余金の配当 12月31日 中間配当 6月30日
単元株式数	1,000株

株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
	<p>■郵便物送付先</p> 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
	<p>■電話お問い合わせ先</p> ☎0120-288-324(通話料無料)

公告掲載方法

電子公告
 当社ホームページ(<http://www.japan-systems.co.jp/ir/>)に掲載します。ただし、事故その他のやむを得ない事由によって電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。

会社概要

(2010年12月31日現在)

社名	ジャパンシステム株式会社
設立	1969年6月
資本金	13億2百万円
本社	東京都渋谷区代々木1-22-1 代々木1丁目ビル TEL 03(5309)0300(代表)
	URL http://www.japan-systems.co.jp
事業所	東京イーストサイドオフィス 北海道支店、東海支店、関西支店、九州支店
証券コード	9758/大阪証券取引所(JASDAQスタンダード)

役員

代表取締役社長	さかぐち 阪口	まさひろ 正坦
代表取締役副社長	おかだ 岡田	かずとし 和敏
取締役副社長	むらなか 村中	たつろう 達郎
取締役(非常勤)	いのうえ 井上	おさむ 修
取締役(非常勤)	むらかみ 村上	しんじ 申次
常勤監査役	うえの 上野	なみお 南海雄
監査役	かめたに 亀谷	つぎお 二男
監査役	ありき 有木	ひとし 均

クリック! ジャパンシステム

ジャパンシステムの注力ビジネスや新しい取り組みをご紹介します。

今回のテーマ **FAST**

環境の変化にいち早く対応し、自治体行政経営を支援する財務会計システムです。

25年以上の歴史

導入実績
250団体以上

14種類の
豊富な
ラインナップ

顧客重視の
カスタマイズ

地方自治体の財政の健全化が急務とされる中、総務省により公会計を整備することを目的に「新地方公会計制度」が策定されました。2011年秋までに、日本全国すべての自治体に対して実施が予定されており、それに

対応する財務会計ソフトが求められています。当社では、ニーズに対応するシステムとして行政経営支援サービス「FAST」を各自治体様へご提供しており、おかげさまで東京都内ではトップシェアを誇ります。

お客様の声

稲城市 総務部
情報管理課 電子情報課 課長

長尾 治彦(ながお はるひこ)様



FASTを中心にベスト・オブ・ブリードで構成する全庁のプライベートクラウド化を提案いただきました。導入時から機動的に動いてくれたことはもちろん、稼働前に全職員対象の操作研修を開いてくれ、大きな混乱なく本稼働を迎えることができました。アフターフォローも万全で、安心してお任せできています。

江東区 政策経営部
情報システム課 IT推進担当係長

武者 智(むしゃさとし)様



対応の良さとレスポンスの早さに本当に助かっています。要点を押さえてわかりやすく説明しながら仕事を進めてくれるので、一緒にやりやすいですね。職員一同、FASTというパッケージに非常に満足していますし、これからも強力なパートナーとして、私たちをサポートしてください。

ジャパンシステム株式会社

東京都渋谷区代々木1-22-1 代々木1丁目ビル
<http://www.japan-systems.co.jp>